（別紙2）　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071501664		
法人名	財団法人　大牟田医療協会		
事業所名	グループホーム　ファミーユ		
所在地	福岡県大牟田市野添町２０番地１９		
自己評価作成日	平成22年4月12日	評価結果確定日	平成22年5月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　福岡市社会福祉協議会　介護サービス評価センターふくおか
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号　福岡市市民福祉プラザ
訪問調査日	平成22年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の意向を中心に対応している。疾患への対応は、同一法人の医療機関とのつながりを持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

大牟田市の中でも地域活動が盛んな地域に立地しており、複数の民生委員との連携や地域交流ｾﾝﾀｰの併設等を通じて法人全体で地域交流に努めている。母体が病院という事もあり、利用開始に際しては、主治医を交えて入所判定を行い、医療ﾆｰｽﾞの高い利用者に対しても地域の医療機関と連携して適切に支援している。受診の支援や入院中の待機、退所先の支援等、利用者・家族が安心して暮らせる体制である。入院後の自立支援として、低下したADLの回復にむけて、丁寧な見守りと適切な介助を行い、全介助の利用者が自分で食事ができる様になった事例や、食事も全て事業所内で調理し提供している点等は、病院とは異なる「家庭ならでは」が活かされた支援と言える。また、消防署や地域と連携した災害時の協力体制等の充実が図られていた。今後とも地域や行政等、あらゆる社会資源との連携を深めて、より一層のｻｰﾋﾞｽの質の向上を期待できる事業所である。

自己評価および外部評価票　　ユニット名：東

（セル内の改行は、（Altｷｰ）＋（Enterｷｰ）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のんびりゆったりを基本に利用者が一日でも長く地域で暮らせるよう管理者と職員はその理念を共有して実践している。	職員全員で意見を出し合い理念を作成している。利用者がゆっくり、のんびりとした毎日が送れるように、さりげなく見守りながら、過不足なく支援すると同時に、利用者、職員ともに地域の一員である事を意識し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の人々との挨拶、気軽に立ち寄れるような雰囲気を作っている。近隣の方が花を持参される。	挨拶や差入れ等、日常的な近所付き合いを通じて地域との交流を図っている。また、地域交流センターを併設しており、演芸ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの受入れや、法人全体での夏祭りの開催等を通じて交流の機会を確保している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域の民生委員さんたちが多く参加され認知症についての理解を深めている。		

社会福祉法人福岡市社会福祉協議会
介護サービス評価センターふくおか

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で利用者の状況報告、ｻｰﾋﾞｽ内容、外部評価の報告し意見や助言を聞きながら、サービス向上に活かしている。	家族や行政、地域民生委員や消防署等、関係者を招いて２ヵ月毎に開催している。会議の内容は、利用者の状況や活動報告、地域行事や交流活動の情報提供、防災訓練の結果や改善点の協議、質疑応答等がなされる等、ｻｰﾋﾞｽの質の向上に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員、地域包括に参加して頂き、意見、助言していただいている。	運営推進会議への行政職員や地域包括支援センター職員の参加がある。行政主催の研修やｲﾍﾞﾝﾄへの参加、介護相談員の受入れ、地域包括支援ｾﾝﾀｰからの利用に関する問合せ等、日常的にも密に連携する機会を確保している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時やそのときの状況に応じて身体拘束しないケアを理解してもらっている。	職員研修にて、高齢者虐待や高齢者の尊厳等、人権についての理解を全職員で深め、日々の業務に反映できるように努めている。また、日常的な支援事例を通じて、言葉かけや行動の制限も含めて啓発に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会で、検討し、虐待の捉え方や対応を正しく理解できる取り組みを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や日常生活支援事業について、説明を行うも、現実に利用や擁護の活動と直接むすびつかない為、理解しがたい現実ある。	制度は高齢者･家族にとって有益な情報と捉え、家族会等にて制度の概要と利用手順等について説明を行う等の取組みがある。	外部からの講師の招聘等も含めて、年間の研修計画に位置付け、職員全体で制度の理解や学ぶ機会の確保に努められる事を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約や解約時には、細かな説明を行うように心がけ、理解していただけるように努力している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と意向や思いを語る場を積極的に図り対応している。	契約時、苦情担当窓口や意見箱について説明を行い、面会時や電話連絡の際にも、直接申し出ていただけるように配慮している。意見や要望等には、内容に応じて、その場での回答や職員会議で検討した後回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務の調整や、利用者の状況に応じ職員との話し合いで人員確保を行っている。	職員会議や個別面談で職員の意見を聞く機会を確保し、運営に反映させている。この過程を経て、夜勤や日勤の時間変更等の事例が見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢に関係なく採用している。社会参加や自己実現の権利の保証については勤務に支障の無いことが前提である。	原則的にヘルパー2級資格取得者を対象とし、年齢や性別、経験の有無などによる制限は設けていない。希望の動機や高齢者に対する想い、理念への共感等を重視している。また、産休や資格取得の奨励や自己実現にむけての勤務調整等、可能な限り対応している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動の取り組みを行っている。	高齢者虐待防止や高齢者の権利擁護について、内部研修や外部研修の受講および報告会等を行い、人権について学習する機会を設け、利用者への対応や尊厳など日々の業務に反映できるように努めている。	外部からの講師の招聘等も含めて、現在取り組んでおられる研修ﾃｰﾏを更に掘り下げて人権意識をより高めると同時に、高齢者に留まらない様々な視点や対象を取り入れた人権学習が展開されることを期待します。
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらﾄﾚｰﾆﾝｸﾞしていくことを進めている	段階に応じた研修会などへの参加を行っている。資格取得については積極的に行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ﾈｯﾄﾜｰｸづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホーム管理者と、利用者の対応や技術について、意見交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望等を聞き信頼関係を重視して行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	殆どが、家族の意向にて入所される方が多く、見学に来られ納得される場合もある。本人が不安を持ち来られる為、本人、家族とかかわりを多く持ち、困っていること、要望等には話を良く聞くようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の事業所からの情報を確認し、本人、家族の状況を踏まえ行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合いながら信頼関係を築くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思い、家族の思いなどを聞いたりしながら本人の思いを家族に伝えたりして絆が途切れないように努力している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣近所のひとが尋ねてこられゆっくり話ができるよう配慮する。	地域の友人との面会や、理美容店等、社会資源の継続的な活用を支援している。事業所内でも、顔なじみの職員による支援が継続されるように配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士気が合う人、気が合わない人を見極めテーブルの椅子に座る位置を変更したりして工夫している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の家族が相談に来られる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	強制はしないよう本人が自由気ままにされるようにしている。	契約時に本人や関係者から情報収集を行っている。入居後は日々のかかわりを通じて、利用者の思いや希望の把握に努め、介護計画書に反映させている。また、申し送りや朝礼時等で確認した意向は、書面に記録しカンファレンス時に検討しながら支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や嗜好に応じて生活スタイルを出来る限り尊重し存続できるようにしているが触れられたくない部分は避けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況に応じて対応している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理解できる利用者には本人の思いと家族の意向、スタッフの意見を聞きながら介護計画を作成している。	カンファレンスを開催し、介護計画を作成している。内容は、目標に加えて、具体的な対応や手順について明記され、利用者・家族・職員が情報を共有する取組みがある。毎週利用者毎の情報交換の機会を設け、毎月のモニタリングと3ヶ月毎の見直しを行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をスタッフ全員で共有しながら工夫し実践している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能性を活かした支援を行っている。介護及び相談援助。同一法人内の事業所の連携を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランテアで話相手など行ってもらっている。民生委員、消防は運営推進会議で情報を頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護、南大牟田クリニック看護と協働に緊急事態に対する対応、週1回の健康チェックを行っている。	契約前の判定委員会において、主治医の参加や照会により、受診や医療対応等について予め情報を得た上で支援している。管理者は看護師と精神保健福祉士であり、医療ﾆｰｽﾞの高い利用者への対応や認知症専門医受診の情報提供等も含めて適切に支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違うような変化が生じた場合は管理者に報告し、同一系列の訪問看護、クリニック看護師に報告受診する。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の看護師、ソーシャルワーカーとの情報交換はしている。本人との面会も行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の指示の元で訪問看護を利用しながら行っている。	重度化も含めて、入院治療に関する指針を作成し、事業所で可能な支援と、医療との連携体制について説明し、同意を得ている。入所から退所時まで、主治医を含めた関係者で話合いの機会を確保し、その都度の意向の確認と情報を共有しながらの支援体制がある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに沿って対応している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練実施。防災計画･防火管理者設定済み。地域住民の協力体制は、運営推進会議にて打ち合わせ済み。	年に複数回の訓練を実施している。民生委員の訓練見学や消防署職員が高齢者疑似体験装具で利用者となっての避難訓練等を実施し、その結果や改善点については消防署職員が運営推進会議にて発表し、協議する等の災害対策が見られた。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを損ねるようなことはしていない。	職員への基本的な接遇や言葉かけ等は、勉強会時やその都度の指導を行っている。特に排泄や入浴介助時は、利用者の尊厳とプライバシーに配慮している。個人情報となる記録等も取扱いに注意し、事務所にて管理を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解して納得できるよう説明している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう一人ひとりのペースを大切にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族と話合いにて希望に応じて行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の中には好き嫌いがある。魚、肉など嫌いな人には魚とは分らないように工夫をしたりしている。利用者のレベルが低下しているため、テーブルを拭くだけはしていただいている。	五感に働きかける要素として食事を重要な支援や楽しみと考えている。基本献立に加え、利用者の好みやﾎｰﾑの畑で穫れた野菜等も食材として調理している。利用者もできることを手伝いながら、職員と共に食事を楽しんでいる様子が伺えた。	、
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分量のチェックを行い一日１０００mﾘ以上を目安に行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じて行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、ﾄｲﾚでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎に出来るだけﾄｲﾚに誘導したり尿意、便意が分かられない場合は2～3時間毎にオムツ確認を行っている。	利用者毎の排泄ﾊﾟﾀｰﾝや介助方法の手順書を作成し、介護計画書に反映させて支援している。利用者間のﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰや尊厳に配慮しながら個別対応を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、ヨーグルト、野菜など、室内散歩を心がけている。それでも便秘の場合は下剤、浣腸などで対応。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日は決めているが本人が入浴を拒否される場合は後日に入浴を促す。	入浴に関して、特に制限は設けておらず、利用者の希望を優先している。清潔保持の為にも、週に2～3回の入浴を勧めており、無理強いせずに、ﾀｲﾐﾝｸﾞを見計らっての声掛けを行うなど、工夫しながら入浴が楽しめる様に支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて居室でベットに臥床して本を読んだり、自由に過していただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を見ながら用法、一人ひとりの薬を毎回ごとにつけている為重要な血糖、血圧、下剤等は特に気をつけている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビを見るのが好きな人、居室で一人で過したい人、何もしたくない人、側居にいて話をするのが好きな人、それぞれである為、その人によって対応している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月命日の法事、月1回美容室に家族が連れて行かれる。天気の良い日は近隣の散歩に行かれる。	日常的な散歩や買い物等、可能な限り、安全に屋外に出られるように支援している。	利用者の身体的な状況から、安全な外出支援には、家族や地域、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等、社会資源の必要性が極めて高いと思われます。利用者の生活の質の向上の一環として、周囲からの支援が広がる取組みを期待します。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2人はお金は持っておられる。買い物は家族が持ってこられているが面会に来られない週は、スタッフに買い物を頼まれることがある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外に住んである方からの電話取次ぎは行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は高く圧迫感が無く住みよい環境になっている。玄関に季節の花などを飾っている。	天井が高く、程よい自然採光で、全体的に明るく広々した共用ｽﾍﾟｰｽになっている。木目調の壁や小上りの和室等、ゆっくり居心地良く過ごせるように工夫している。各居室からリビングを囲む構造になっており、歩行器や車椅子でも移動しやすいような造りとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の思いのままに仲の良い者同士の居場所でくつろいでもらっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながらレベルに応じて居室に設置して居心地さを体感してもらっている。	居室には、高さ調節ﾍﾞｯﾄﾞ、クローｾﾞｯﾄ、洗面所が備え付けてあり、写真やタンス、仏具等利用者にとって馴染みの物が持ち込まれている。利用者の生活習慣や身体状況に応じて、布団を使用する等、安全で使いやすいように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はある程度の工夫がなされている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない